

東京 ドキュメンタリー 映画祭 Tokyo Documentary Film Festival 2025

日々変動する
世界の“生”を目撃せよ！

お客様の投票による「観客賞」もあります

TDFF

12.6 Sat — 12.19 Fri
新宿K's Cinema

長編部門コンペティション審査員
筒井武文／アーロン・ジェロー
短編部門コンペティション審査員
塩崎登史子／藤田修平
人類学・民俗映像部門コンペティション審査員
北村皆雄／鈴木正崇

ごあいさつ

東京ドキュメンタリー映画祭も8年目を迎え、今年も多彩な作品が集まりました。
国内外の力作を前に、あらためてドキュメンタリーの大きな役割である「生の現在や痕跡を記録する」ことの意味を噛み締めています。この1年、上映を大変に喜んでくれたグランプリ受賞作家や、苦楽を共にしたスタッフの訃報に接する悲しみもありましたが、彼らとも分かち合った、日々変動する人間や世界の「いま、ここ」を記録したドキュメンタリー映像の魅力は、時空を超え、普遍的なものとしてみなさまを刺激し、思いを共にできるものと確信しています。貴重な作品の上映を、ぜひお楽しみください。

佐藤寛朗 (プログラマー)

※各コンペティション上映作品は、お客様の投票による観客賞の対象となります

長編部門コンペティション

『九州大学 彦山生物学実験施設』

監督=児玉公広/2025年/116分/日本



12/ 6 10:00

12/17 16:05

福岡県・英彦山の中腹にある「九州大学彦山生物学実験施設」を、4年にわたって取材する。90年近く手入れをされながら、現在も大切に使用されている施設の歴史と、生息する多様な昆虫たち、そして施設に集う虫を愛する若き研究者たちの熱い思いを丁寧に描く。大人も子供も彦山に行きたくなる魅力に溢れた一本。

『浮浪調律』

監督=今成夢人/2025年/77分/日本



12/ 6 16:50

12/12 13:50

普段は故郷の富山県で林業に従事するミュージシャン、W.C.カラス。酒を愛し、客に媚びない独自の音楽性で知られる彼は、やがて演劇とブルース／ロックンロールを組み合わせた「ローキョクンロール」の制作に没入していく。60歳を超えても変化を恐れず、己の眼差しで時代と対峙しようとするひとりの男の肖像が描かれる。

『WITH』

監督=清水大志/2025年/83分/日本



12/ 9 16:10

12/14 10:00

石橋義正監督の劇映画『唄う六人の女』が撮影地にもたらした変化を、一年半にわたり追ったドキュメンタリー。「自然との共生」をテーマに京都・奈良で制作された同作の影響を、映画撮影から上映まで、市職員や関係者の姿を通して描く。地域社会の中で映画はどのように共鳴し、人々の意識や行動に変化をもたらしたのか。

『詩人iidabii～ある宗教2世の記録～』

監督=松井秀裕/共同監督=津田友美/2025年/106分/日本



12/ 6 12:30

12/16 10:00

特定の信仰のもとで育った、いわゆる「宗教2世」の詩人iidabii (イーダビー) が、自身の過去と向き合いながら「言葉を失わずに生きることを」探し続ける姿を、3年にわたって追いかける。信念や価値観の違いが生む分断を越え、人が人としてつながるための「対話」を模索し行動する、ひとりの詩人の苦悩のドキュメント。

『UNVOICED』

監督=北鹿/2024年/86分/日本



12/ 7 12:20

12/15 13:55

コロナ禍を経験した、中国・武漢の住民8人へのインタビュー。中国ではコロナ禍について公に語る事が許されておらず、「あの時」は無かったかの様に忘れられようとしている。リスクのある中で「あの時」の苦しみと喪失を語る住民たちの声は、単なる記録を超え、忘却への抵抗、言論統制への反発となって国境を越える。

『紅線 Red Line』

監督=佐藤充則、平野愛/2024年/142分/日本



12/10 11:45

12/13 16:00

「紅線(レッドライン)」とは、越えてはならない、あるいは譲れない一線のこと。2019年の民主化運動の後、香港では国家安全維持法が施行され、言論の自由が急激に奪われ、民主派の新聞は次々と営業停止に追い込まれた。それでも取材を続けようとする記者たちの3年間の葛藤を記録する。完成後、佐藤は急逝し遺作となった。

『モテモテのテーマ』

監督=浜田真悟/2025年/89分/日本



12/ 6 14:50

12/15 16:00

長野から単身上京し音楽活動をしている22才のハギノオウスケが、モテたくて結成したロックバンド「mote mote band」。真っ直ぐな歌と力強い演奏でライブで人気を得るが、ハギノのモテたい願いを残しわずかに一年で解散。なぜ彼はモテないのか。そもそも「モテる」とは何か。不思議な人間像が、多くの友人たちの証言で浮かび上がる。

『村で生きる』

監督=小林瞬、中村朱里/2024年/102分/日本



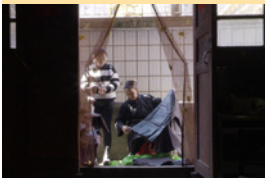
12/ 8 10:00

12/14 14:10

阿蘇連山を望む熊本・産山村で、「あか牛の神様」といわれた畜産家がいる。「牛は草で育つのが本来の姿」を信念に地域の循環を守り続けてきたが、86歳となった今、妻は亡くなり、過疎化は進む一方だ。それでも村への想いを抱く父の偉大な背中を見てきた息子は何を思うのか。雄大な自然を舞台に、親子の暮らしを見つめる。

『晩夏ノ蝉』

監督=鄧茂榮(トウ・モエイ)/2025年/68分/日本



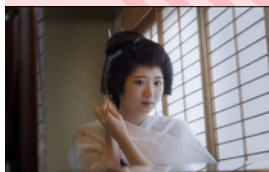
12/10 14:40

12/13 11:40

中国貴州省の少数民族・トン族が住む岩洞村では、自給自足の生活と「大歌」を唄う伝統が今も息づいている。だが都市化と情報化の波は村にも及び、若者は都会の生活に憧れ、村を出てゆく。伝統に背を向け、街で未来を切り開こうとするひと組の夫婦の奮闘やすれ違いを通して、現代中国の伝統への視線や家族観を問う。

長編＋短編部門 コンペティション

『Johnny』＋『鶴になる』



12/10 8 16:20

12/14 9 12:00

『Johnny』

監督＝長谷川三四郎/2025年/32分/日本

『鶴になる』

監督＝島田拓空也/2025年/61分/日本

震災後も営業を続ける岩手県・陸前高田市のジャズ喫茶に流れる、店主と常連の“日常の時間”を記録した『Johnny』。大阪・ミナミに一軒だけ残る芸妓がもてなすお茶屋に飛び込んだ見習いが、作法や稽古に苦戦しながら芸妓を目指す『鶴になる』。対照的な二つのお店で展開される、女性たちの安らぎと華やきの記録。

短編部門 コンペティション

戦争の記憶を継ぐ



12/ 7 8 14:25

12/15 9 10:00

『QIRIM(クリミア)』

監督＝カテリーナ・フラムォヴァ/2024年/10分/ウクライナ

『森、すきま』

監督＝チェ・イェリン(崔藝隣)/2025年/16分/韓国

『沖縄 戦没者遺骨収容 2025－ボランティアの組織的調査－』

監督＝宮ゆふき/2025年/25分/日本

『最後の戦犯－残された手記－』

監督＝福本日和/2025年/25分/日本

戦地に赴いたクリミア出身アーティストのビデオレポート『クリミア』。群馬県による「朝鮮人追悼碑」撤去問題にある意識の断層を詩的に問う『森、すきま』。今なお続く遺骨収集の意外な側面をみる『沖縄 戦没者遺骨収容 2025』。終戦直前、米兵捕虜が処刑された「油山事件」実行者の葛藤をひとくち『最後の戦犯』。戦争の本質が、時を超え交錯する。

コミュニティと言語



12/ 8 8 12:20

12/16 9 14:10

『Blessing Lies Here』

監督＝倉田清香/2025年/11分/日本

『憧れの暮らし、常盤平団地』

監督＝加藤温/2025年/32分/日本

『はざま－母語のための場をさがして－』

監督＝朴基浩(パク・キホ)/2025年/39分/日本

認知症が進み、母語での介護を余儀なくされる在日韓国人高齢者に寄り添う『Blessing Lies Here』。かつてマンモス団地と呼ばれた古い団地に暮らす高齢者と新たな住民との交わりを描く『憧れの暮らし、常盤平団地』。母語の喪失に直面する外国籍住民のケアにフォーカスする『はざま』。多様化する在留外国人コミュニティや、共生のありようを最前線でみつめた3本。

終わらぬ日々の記録



12/ 8 8 14:20

12/12 9 15:50

『水平へ漕ぎだす 辺野古海上行動と裁判闘争』

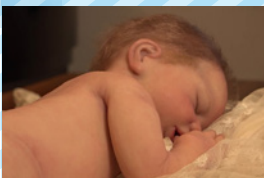
監督＝吉岡千絵/2025年/38分/日本

『マイブレイス－保養という選択』

監督＝渡辺徹也/2025年/59分/日本

辺野古の米軍基地建設に抗議するカヌー隊と、抗議中に起きた事故の裁判を描く『水平へ漕ぎだす 辺野古海上行動と裁判闘争』。岡山県で、福島第一原発事故の罹災者を一定期間受け入れる「保養」に密着した『マイブレイス－保養という選択』。メディアで報じられなくても続く日々を生きる人々の、思いや葛藤に向き合った2本。

あなたのそばに



12/ 8 8 16:35

12/13 9 10:00

『リボーンドールと生きる』

監督＝二階堂萌花/2024年/10分/日本

『Never Give Up それでもラジオ!!』

監督＝松永安浩/2025年/58分/日本

リアルな赤ちゃん人形「リボーンドール」を携え愛しむ3名の女性が、率直な心情を明かす『リボーンドールと生きる』。29年動けた局を追い出されたラジオDJ ジェイムス・ヘイブンスが、自前でFMラジオ局を作るまでの壁を描いた『Never Give Up それでもラジオ!!』。積み重ねられたインタビューが、必要とすること、されることの意味を問う。

人生の夕暮れに



12/ 9 8 10:00

12/15 9 12:00

『春一番』

監督＝赤川純/2024年/18分/日本

『ばあば』

監督＝伊藤祐里香/2025年/28分/日本

『夕日に舞う』

監督＝仲村淳/2025年/30分/日本

親族の老いや認知症など、にわかに受け入れ難い現実、映像作家はどのように向き合うのか。入院中の夫と離れ、一人暮らす祖母の暮らしを静かにみつめた『春一番』。親しみを崩さず、祖母への愛が画面から溢れる『ばあば』。認知の進行に戸惑いながらも、1年にわたり母の姿を美しくカメラに収めた『夕日に舞う』。三者三様の記録。

生きる実感



12/ 9 8 11:50

12/18 9 16:40

『because time is life』

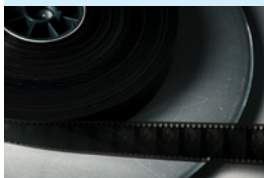
監督＝天野澄子/2025年/32分/日本

『メインクエスト2 ～離れなき負け犬の遠吠え～』

監督＝上原源太/2025年/45分/日本

ALS(筋萎縮性側索硬化症)を患い在宅で暮らすきゅりと、重度訪問支援者として彼女の暮らしに寄り添うまき。彼女たちの日々の楽しみや社会とのかかわりを描いた『because time is life』。難攻不落の“悪魔のレース”に挑み続けるプロトレイルランナーの挑戦を追った『メインクエスト2』。それぞれに灯る命の輝きを、カメラが捉える。

感覚とメディア



12/10 8 10:00

12/16 9 12:20

『絨毯の下から』

監督＝小野選香、マリア・ヴェラスコ/2025年/7分/フランス

『色をこえて青を見る』

監督＝シビラ・バトリチア/2024年/16分/日本

『あと数世紀』

監督＝ラファエル・マルタン＝デュマゼール/2024年/19分/フランス

『AIが消し去る声』

監督＝窪田望/2025年/26分/日本

身体タブーを3人の女性がそれぞれの母国語で語る『絨毯の下から』。理想の青を求め藍染を極める男たちを捉える『色をこえて青を見る』。フィルムアーカイブでの修復作業を圧倒的映像美でみせる『あと数世紀』。AIが「外れ値」として排除する、ある少数者の存在に耳を傾ける『AIが消し去る声』。信念や美学に彩られた4つの短編。

人類学・民俗映像部門コンペティション

人類学・民俗映像 A



12/ 7 10:00
12/17 11:50

『カルロスのレシビ』

監督＝青木敬、長良将史/2025年/108分
カーボヴェルデ・日本

カーボヴェルデ北西部のサンヴィセンテ島。アルコールと薬物依存に翻弄されながら日々を生きるカルロスの背後にあるのが、カーボヴェルデに深く根ざした感情「ソダーデ」。カルロスの声と記憶、そして音の風景をとらえることで、奴隷制の時代から音楽を通してこの国に受け継がれてきたソダーデの一端を映画は映し出す。

人類学・民俗映像 B



12/11 10:00
12/17 14:10

『マサイ・エウノ』

監督＝キレ・ゴダール/2025年/34分/ケニア

『天幕の下で』

監督＝ハーレー・モーリン/2025年/45分/カナダ

ケニアで約20年に一度行われる、マサイ族の成人戦士への通過儀礼「エウノ」と、カナダ・アルバータ州で行われる、ネイティブアメリカンの伝統的な祭り「パウワウ」をそれぞれ記録した作品。儀礼に挑む若者の繊細な表情や、祭り自体が持つエネルギーをとらえた多様な迫力あるカメラワークは、スクリーンに映えること間違いなし。

人類学・民俗映像 C



12/11 11:55
12/17 10:00

『アット・ザ・ドアウェイ』

監督＝エマ・ヴォルツ、ソフィー・ヴィタカー
サラ・ソワード・テイラー、ケイト・マッケラー
スコット・クリストファーソン
2025年/15分/タイ・アメリカ

『ムル族の犠牲祭』

監督＝マシユルク・ラーマン・カーン/2025年/60分
バングラディシュ

タイ北部の少数山岳民族・モン族のシャーマン、ジーネンが日常生活と憑依を行き来するさまを、マルチカメラとモノログで省察する『アット・ザ・ドアウェイ』。『ムル族の犠牲祭』は、バングラディシュ・チッタゴン近郊の丘陵地に暮らす先住民ムル族の儀式にカメラが密着。村の暮らしと、牛を神に捧げる様子がよくわかる好編。

人類学・民俗映像 D



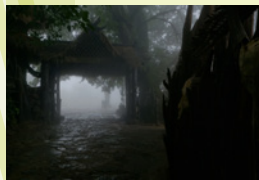
12/11 13:45
12/16 16:10

『コロストラム』

監督＝水野さやか/2024年/75分/スイス

『コロストラム』とは出産後に最初に出る乳のこと。スイス・アルプスのふもとで酪農を営むバスカルのもとに、夏の間、ボランティアとして都会暮らしのソレーヌがやってくる。土地や家畜の世話をする厳しさを味わいながら、対話が続ける二人を通して、酪農を独自の視点で見つめた、スイス出身・在住の日本人監督の長編デビュー作。

人類学・民俗映像 E



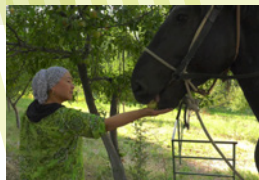
12/11 15:35
12/18 10:00

『翁丁 The Last Tribe in China』

監督＝劉春雨(リュウ・シュンウ)/2024年/135分/日本

中国雲南省、ミャンマー国境近くにある少数民族ワ族の集落「翁丁」を、10年にわたり記録する。「中国最後の伝統集落」と呼ばれ、300年近く続いてきた生活だったが、政府の政策で村人は移住を余儀なくされ、古い集落は観光開発がなされた。やがて村で壊滅的な火災が起き……。失われた村の暮らしもたつぷりと描かれた大作。

人類学・民俗映像 F



12/12 10:00
12/18 12:50

『ドッグ・シット・フード』

監督＝ふくだべろ/2025年/22分/日本

『ブズカシー男の地のアティルキュー』

監督＝ジャヌル・ジュスプジャン/2023年/65分
クルグズ(キルギス)

ルワンダのトゥワの家族に突如起きた喧嘩が、やがて収束し皆で踊り出すまでのリズムをワンカットで記録した『ドッグ・シット・フード』。『ブズカシー男の地のアティルキュー』はクルグズ(キルギス)の男たちが、頭を落としたヤギの胴体を馬上で奪い合う伝統遊戯。その背後にある、馬の飼育から生活のサポートまで、様々な局面で活躍する女性の存在にカメラは注目する。

人類学・民俗映像 G



12/12 12:00
12/18 14:50

『キックオフ』

監督＝ロジャー・コレラ、ステファノ・オビノ/2024年/77分
ドイツ、スペイン

クルグズ(キルギス)の山岳地帯にある小さな村コクタシュ。家事や育児を堅実にこなし、夫婦、嫁姑関係に折り合いをつけながら生きている主婦たちの楽しみは、なんとサッカー。トーナメント戦を企画し、思う存分体を動かしてゲームを楽しむ女性たちの快活な表情が、雄大な自然をバックに、日常生活と共に描かれる。

特集上映「台湾記録片」

歴史的にも繋がり深い日本と台湾の関係を、映画で探るプログラム。台湾と日本の知られざる歴史や、日本では公開の機会が限られる作品をセクション上映

台湾記録片 A ※東京初上映



12/19 10:00

『夢の中の故郷』

監督＝吳宏翔（ウー・ホンシャン）/2017年/80分/台湾

日本統治時代に青春を過ごした台南女子高の“日本語世代”の卒業生たちが、激動の戦中・戦後経験を語る。日本式の教育を受け、差別がありながらも学校生活を楽しんだ日々が一転、戦後に流入した中国式の教育に戸惑う。二つの国に翻弄されながら、時代の荒波を乗り切った誇りと、今も心の拠り所となっている友情が描かれる。

台湾記録片 B ※日本初上映



12/19 12:00

『火種を再燃させる -1900～1907年のトバ戦争-』

監督＝曾宇平（ベヒュー・マサオ）、高俊宏（ガオ・ジンホン）
2025年/53分/台湾

『いつの日にか帰らん』

監督＝楊孟哲（ヤン・モンチー）/2022年/55分/台湾

日本統治時代の初期、伝統法を守りながら7年にわたって抵抗した先住民タイヤル族の知られざる戦いを描いた『火種を再燃させる』。第二次世界大戦に従軍し、終戦後3年半にわたってシベリアに抑留された台湾人の元日本兵の、波乱の人生の最終章を捉えた『いつの日にか帰らん』。複雑な日台関係史の一面が見える2本。

台湾記録片 C ※東京初上映



12/19 14:20

『ポエトリーズ・フロム・ザ・ブックストアズ』

監督＝侯季然（ホウ・チーラン）/2025年/90分/台湾

近年、台湾各地に開業している独立系書店15店を訪ね、個性あふれる店舗の様子や人間模様を詩的に描いたオムニバス・ドキュメンタリー。街角、山、海辺など、様々な場所に書店をつくる経営者や、そこに立ち寄り、本を求める人々の周りにある、豊かで安らかな時間と空間を、カメラはそのまま、包むように記録する。

特別上映

今年4月に急逝した佐藤充則監督と、今年8月に逝去した当映画祭スタッフ澤山恵次を偲び、彼らが愛し、上映に力を込めた過去のグランプリ作品を特別に上映

『Yokosuka1953』

監督＝木川剛志/2021年/107分/日本

※2021年 長編部門グランプリ受賞作



12/ 7 16:10

1947年、戦後の横須賀に日本人の母と外国人の父との間に生まれた木川洋子（Yoko）は、当時の過酷な状況のなか、養子縁組でアメリカに渡り、母との離別を余儀なくされた。母はどのように生きたのか、SNSをきっかけに、彼女のルーツ探しが始まった。横須賀～アメリカ～八王子をたどる、奇跡的ともいえる出会いの旅の記録。

上映後トーク

木川剛志（本作監督）× 松崎まこと（映画活動家）

『香港時代革命』

監督＝佐藤充則、平野愛/2022年/117分/日本

※2023年 長編部門グランプリ受賞作



12/13 13:20

2019年、香港では自由と民主化を求める大規模な抗議デモが勃発。警察の暴力に抵抗するデモ隊を、市民や学生の立場で支持し、撮影する人々がいた。しかし破壊行為への反感から政府支持の市民も現れ、デモは行き詰まる。分断の進む中、もがきながら記録を続けるトラック運転手や学生記者に密着し、激動の香港に生きる人々の姿を見つめる。

上映後トーク

平野愛（本作監督）× 阿古智子（東京大学教授）



作品の詳細は公式サイトでご確認ください
tdff-neoneo.com

Time Table 12.6sat — 12.19Fri

※長編・短編・人類学の各コンペティション上映作品は、お客様の投票による観客賞の対象となります

12 6土	10:00 長編 『九州大学 彦山生物学実験施設』 (116分)	12:30 長編 『詩人 iidabii〜ある宗教2世の記録〜』 (106分)	14:50 長編 『モテモテのテーマ』 (89分)	16:50 長編 『浮浪調律』 (77分)
12 7日	10:00 人類学A 『カルロスのレシビ』 (108分)	12:20 長編 『UNVOICED』 (86分)	14:25 短編 戦争の記憶を継ぐ (76分)	16:10 特別 『Yokosuka1953』+トーク (107分)
12 8月	10:00 長編 『村で生きる』 (102分)	12:20 短編 コミュニティと言語 (82分)	14:20 短編 終わらぬ日々の記録 (97分)	16:35 短編 あなたのそばに (68分)
12 9火	10:00 短編 人生の夕暮れに (76分)	11:50 短編 生きる実感 (77分)	13:45 長編 『バルバティ・パウル 〜黄金の河を渡って』(109分)	16:10 長編 『WITH』 (83分)
12 10水	10:00 短編 感覚とメディア (68分)	11:45 長編 『紅線 Red Line』 (142分)	14:40 長編 『晩夏ノ蝉』 (68分)	16:20 短編+長編 『Johnny』+『鶴になる』 (93分)
12 11木	10:00 人類学B 『マサイ・エウノ』+ 『天幕の下で』(79分)	11:55 人類学C 『アット・ザ・ドアウェイ』+ 『ムル族の犠牲祭』(75分)	13:45 人類学D 『コロストラム』 (75分)	15:35 人類学E 『翁丁 The Last Tribe in China』(135分)
12 12金	10:00 人類学F 『ドッグ・シット・フード』+『ブスカシ 〜男の地のアティルキュル〜』(87分)	12:00 人類学G 『キックオフ』 (77分)	13:50 長編 『浮浪調律』 (77分)	15:50 短編 終わらぬ日々の記録 (97分)
12 13土	10:00 短編 あなたのそばに (68分)	11:40 長編 『晩夏ノ蝉』 (68分)	13:20 特別 『香港時代革命』+トーク (117分)	16:00 長編 『紅線 Red Line』 (142分)
12 14日	10:00 長編 『WITH』 (83分)	12:00 短編+長編 『Johnny』+『鶴になる』 (93分)	14:10 長編 『村で生きる』 (102分)	16:25 長編 『バルバティ・パウル 〜黄金の河を渡って』(109分)
12 15月	10:00 短編 戦争の記憶を継ぐ (76分)	12:00 短編 人生の夕暮れに (76分)	13:55 長編 『UNVOICED』 (86分)	16:00 長編 『モテモテのテーマ』 (89分)
12 16火	10:00 長編 『詩人 iidabii〜ある宗教2世の記録〜』 (106分)	12:20 短編 感覚とメディア (68分)	14:10 短編 コミュニティと言語 (82分)	16:10 人類学D 『コロストラム』 (75分)
12 17水	10:00 人類学C 『アット・ザ・ドアウェイ』+ 『ムル族の犠牲祭』(75分)	11:50 人類学A 『カルロスのレシビ』 (108分)	14:10 人類学B 『マサイ・エウノ』+ 『天幕の下で』(79分)	16:05 長編 『九州大学 彦山生物学実験施設』 (116分)
12 18木	10:00 人類学E 『翁丁 The Last Tribe in China』(135分)	12:50 人類学F 『ドッグ・シット・フード』+『ブスカシ 〜男たちの国のアティルキュル〜』(87分)	14:50 人類学G 『キックオフ』 (77分)	16:40 短編 生きる実感 (77分)
12 19金	10:00 特集A 『夢の中の故郷』 (80分)	12:00 特集B 『火種を再燃させる —1900〜1907年のトバ戦争—』+ 『いつの日にか帰らん』(108分)	14:20 特集C 『ポエトリーズ・フロム・ザ・ ブックストアズ』(90分)	16:50 各賞授賞式 ※入場無料

一般:1,600円/大学・高校:1,400円/シニア:1,200円
障がい者・同伴者(1名まで):各1,000円

ご鑑賞の3日前0:00より上映時間の30分前まで劇場サイトよりチケットがご購入いただけます

特別鑑賞券発売中! 3回券:3,600円

劇場窓口および映画祭事務局で販売(映画祭期間中も販売しますが、売り切れ次第販売を終了します)
※Web予約では使用できません。窓口にて指定席券とお引き換えください

【東京ドキュメンタリー映画祭事務局】
主催:neoneo編集室|後援:一般財団法人 宮本記念財団
協賛:エトノシネマ|協力:三叉路フィルム、台湾映画同好会
問い合わせ先メール:tdff.neoneo@gmail.com(東京ドキュメンタリー映画祭事務局)

監督による舞台あいさつを予定!



作品の詳細は公式サイトでもご確認いただけます
tdff-neoneo.com

× @TDFF_neoneo f tdff.neoneo

新宿駅東南口階段下 甲州街道沿道コモショップ左入ル

新宿 K's cinema

03(3352)2471 www.ks-cinema.com
各回入替・全席指定

